

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	62	学校名	静岡県立遠江総合高等学校	校長	森 健司
------	----	-----	--------------	----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	<p>基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を軸に、心身ともに健康・健全で自他の生命（いのち）を尊ぶ心を育てる教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校長身だしなみ指導0（ゼロ）の継続 ・欠席、遅刻、早退者数の減少（昨年 1日平均：欠席8.5人、遅刻4.7人、早退1.2人） ・生徒指導件数 10件以内（昨年 3件、延べ12人）（一昨年16件、延べ30人） ・さわやかな挨拶が日常的に交わされる学校 ・生徒手帳の効果的利用の促進 ・自己有用感の向上（キャリアアンケート昨年比増）（昨年1年75.3%、2年60.6% 3年65.6） ・生徒間のいじめ、0（ゼロ）をめざす。 ・生徒相談件数 昨年比減（昨年 延べ256件） ・朝食摂取率95%以上（昨年95.2%） ・集会、式典において校歌を声高らかに歌える。（目指す生徒像） 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長身だしなみ指導0を目指し、例年の指導を継続できた ・出席状況は、欠席・遅刻・早退ともに昨年度とほぼ変わらなかった。1日平均17.3人、遅刻5.9人、早退2.7人 ・生徒指導件数は1月現在13件29人となっている。件数の多寡にこだわらず、生徒の学ぶ環境の向上に今後も努めていきたい。 ・生徒手帳の利用については集会など積極的な活用場所を設定していただくことで生徒にとって良い経験となっている。 ・いじめについてはアンケートなどによる早期発見・解消に向け取り組んだ。 ・生徒相談件数は、2学期末までで延べ112件となり、1クラス減の影響もあると思われるが昨年同時期との比較で34%減となった。 ・今年度の朝食摂取率は92.5%であった。 1年次 89.3% 2年次 94.4% 3年次 94.1% 月別では7月が最低の89.8%、5月が最もよく94.6%であった。 ・校歌を歌う機会を増やすとともに部活動、音楽授業で歌唱機会を設けている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校による長期欠席が減っていない。遅刻と早退については例年並みであるが、特定の生徒が多く遅刻する傾向がある。引き続き、改善に向けて遅刻指導や面談をしていく必要がある。 ・生徒手帳は、進路指導で3年次生の利用率が高い常に自己管理をするという観点から手帳利用率を向上させたい ・いじめは積極的な認知が必要であることを全職員に周知する必要がある。（昨年18件、延べ29人）（一昨年5件、延べ15人） ・相談室職員を中心に、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、行政機関などと連携しながら相談業務を行った。不登校傾向にある生徒に対して十分に関われないまま進路変更に至るケースがあった。 ・現在紙媒体で行

					っている朝食調査を C-learning を活用することで、欠食傾向のある生徒に対し、朝食の重要性を伝えていきたい。
イ	<p>系列・年次・教科を超えた協力体制のもと、遠高16の力の育成をめざしたキャリア教育の定着と改善を図り、多様な進路実現をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート(研修課主管)で「キャリア教育を推進している」が昨年比増(昨年86.4%) ・キャリア教育に関する評価アンケートで、『聴く力』と『計画的に取り組む力』に関して「できない」と回答する生徒0%、『自ら行動する力』と『学びに向かう力』に関して「できる」又は「ややできる」と回答する生徒75%以上 ・2年次への円滑な移行とキャリア学習の接続をサポートする。 ・進路決定率100%(3年次) ・希望進路決定率 2年次80% 1年次60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートで「キャリア教育を推進している」が前年より増加した。(昨年は88.1%) ・『聴く力』について「できない」の回答率は3年0%、1、2年は0.3%、『計画的に取り組む力』については3年1.5%、1、2年は5.1~5.2%だった。『自ら行動する力』の肯定的な回答は1、3年で75%を超えたものの、2年では70.2%、『学びに向かう力』についても1、3年は75%を超える一方、2年は74.5%であった。 ・キャリア学習の一環である「産業社会と人間」や科目選択指導を通して、系列ごとに特色や目指す人物像などを学ぶことができた。 ・3年次生の進路決定率は概ね達成の見込みである。(就職内定者については年内100%達成) ・希望進路決定率についても、進路学習を行いながら進めている。 ・2年次でのインターンシップの実施は真剣に進路を考えるよい機会となり、概ね達成できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と地域の協力を得ながらキャリア教育を続ける。 ・どの回答に関しても、3年次生は目標を達成している。昨年度も同様であり、1、2年時の基礎があつてこそだと思ふが、直面する進路意識により、自然と整うのではないかと。 ・将来に向けた適材適所を見出せるよう継続的にサポートする。 ・今年の3年次生は、コロナ初年度に入学した生徒たちである。進路に関する様々な行事が中止となり不安視されたが、結果的に健闘した結果となった。 ・進路課と学年が協力し情報を共有することで、進路実現を果たすことができた。 ・国公立大学や看護系では厳しい結果となった。早い

					<p>段階から進路意識を向上させ、受験勉強に取り組ませる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2年次生についても中期的・長期的にものごとを考えさせ、3年次生に向けての進路学習を進めていく。
ウ	<p>学習習慣の定着を柱にした基礎学力の向上ならびに、全ての教科科目でわかりやすく、主体的な学びをめざす授業改善と評価の改善に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間1日平均60分、定期テスト1週間前から90分をめざす。 ・落ち着いた朝読書の定着と新聞活用指導の継続 ・図書室の利用者数増 ・定期訪問時の研究授業や研究協議の参加率100% ・全教員がアクティブラーニングを意識した授業を管理職の授業観察時に実践（実施率100%） ・授業公開週間時の授業参観率80%以上 ・測定ツールで把握した学力に基づき、授業改善に取り組んだ教員80%以上 ・年2回の授業アンケートの実施と活用（継続） ・全科目で評価方法の点検を行い、シラバスに反映させる。（実施率100%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が頑張っており取り組んでいた。 学ぶ姿勢ができていない、学習の仕方がわからないという生徒もいるのが現状である。 ・朝読書、NIE共に落ち着いて積極的に取り組むことができた。 ・図書室は放課後の利用者が減少した。 ・研究授業は授業のあいだにいる教員はほとんど参観し、研究協議は該当教科の教員が参加した。 ・アクティブラーニングを意識しつつ、ICTの活用を取り入れた公開授業を行った。教科で代表1人を決めて行ったので公開率は18.6%（昨年45.2%）になった。また、参観率は10.2%（昨年12.9%）だった。 ・観点別評価に対応したシラバスを作成し、デジタルデータ化することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣が身についている生徒とそうでない生徒の差が大きく、家庭学習の習慣づけの方策が必要である。 ・年次の職員の協力もあり、NIEで様々な分野の記事に触れることができた。 ・授業のあり方、やり方を研究する。また、授業時間の一部分でも参観するよう呼びかける。 ・年2回の生徒による授業アンケートを実施できたが、そのデータの活用について検討する必要がある。
エ	<p>新学習指導要領への移行、高大接続改革の進行を踏まえ、新しい教育課程の検討を軸にしたカリキュラムマネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育改革、高大接続改革の理解を深めるための校内研修の実施と外部研修への積極的な参加 ・教育課程の点検、検討を進める。（社会に開かれた教育課程を意識） ・ポートフォリオの導入、実践 ・校務内規の点検継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業を各教科で試みた。 また、特別支援教育について研修した。 ・令和6年度入学生からの学校全体で取り組む探究活動を重視した教育課程の見直しに向けて、検討を行った。 ・校則の身だしなみ細目 	B	<p>授業でのICTの活用とアクティブラーニングを特別支援教育に役立てるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にもアンケート結果を周知することで自分の身だしなみを多面的な視点で捉えられ

様式第3号

	<p>トの推進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ESD (持続可能な開発のための教育) の理解推進 	<p>について見直しを図るとともに、外部アンケートを実施して一般社会の通念とすり合わせを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の観点別評価に関する内規を作成し、実施することができた。 ・1年次「産業社会と人間」の授業内でSDG'sを題材にした授業を行った。 	<p>るような機会を設定したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度はさらに時間数を増やして実施する。
<p>オ</p>	<p>双方向の積極的な地域連携と外部発信により、社会に開かれ、地域に愛される学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育に限らず、生徒自身が地域に出て行く機会を増やす。 ・各部活動による年1回以上のボランティア活動の実施 ・系列や専門分野での外部人材の活用推進 ・学校案内をさらに見やすく改善する。 ・学校だより、学校新聞の内容を点検し、各2回発行 ・学校ブログの更新、週1回以上 ・各部活動の活動状況、学校行事の様子等を、大会や行事終了後1週間以内に、ホームページに掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次生SUTでは森町プロジェクトを実施。役場の方と協力し、高齢者の交流の場であるオレンジカフェを開催するなど地域との連携を行った。 ・系列による企業・学校見学会で系列専門性を深めることができた。 ・食品系列では花リレープロジェクトの実施により生徒が地域に出る場が増えた。また同窓会と連携し、新たに柿の木の選定実習が実施できた。 ・食品、ビジネスは、ふじのくにチャレンジフェスタに参加した。農業が製造した製品の販売を担当した。他校との交流も図れ、よい経験になった。 ・ボランティアは全部活動とまではいかなかったものの多くの部活動で実施された。 ・外部人材の活用について、系列の授業において卒業生や地元の方による講話や講座を実施することができた。 自然系列では「地域の産業とSDG's」というテーマで地元の企業の方に来ていただいて講話をした。 食品系列では、高度人 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であるため、活動しにくいですが、チャンスがあれば積極的に参加していきたい。 ・課題研究等を活用し、生徒が地域(企業・中学校等)へ出る活動を増やしたい。 ・継続的にボランティアの参加を呼び掛け、実施を促す。 ・コロナ禍のため、講師要請に躊躇する状況である。時間的、物理的、金銭的に難しい制約もあるが今後も各系列の学習の中で、卒業生や企業の方などに接する機会があると良い。 ・学校案内は引き続き内容の見直しを続けていく。 ・学校だより等は現在は冊子を生徒を通じて配布しているが、電子データをCラーニングで配信するほうが保護者にも伝わりやすいか。(経費削減にもつながる。)

			<p>材活用事業、J A担い手育成事業の新規実施により外部人材の活用ができた。また本校卒業生を講師に迎えて和菓子作りの授業ができた。</p> <p>機械、電子系列では弁理士を招請し、知的財産権について理解を深めさせた。</p> <p>ビジネス系列では卒業生に来てもらい、講演してもらった。</p> <p>ライフ系列では外部講師による福祉用具の授業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校案内は画像を多用し、本校をイメージしやすいよう工夫した。 ・学校だよりを2回発行した。 <p>(2回目は、2月予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会誌「澄樹」は現在鋭意作成中である ・掲載記事の依頼も多く、ホームページやSNSに活動の様子を紹介することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会誌については周年行事などの活用に向けて更なる内容の充実に努める。 ・HPについては特定の活動の紹介が多いので、様々な活動の様子を紹介していきたい。
カ	<p>効率の良い業務遂行、業務改善ならびに行事の点検と精選を進め、職員の適正なワークライフバランスの推進と安全・安心な教育環境の整備に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の防災訓練のうち、事前通知なしの訓練の導入検討 ・学校警備及び防災計画の継続的な点検、改善 ・時間外勤務の出勤簿への正確な記入 ・1ヶ月あたりの時間外勤務45時間以内、年間360時間以内 ・夏季休暇の完全取得 ・定時退勤日 午後4時40分退勤励行 午後6時完全退勤 平常日 午後7時退勤励行 午後8時完全退勤 ・部活動ガイドライン履行達成率80% ・コンプライアンス研修毎月1回 ・教職員の不祥事0、体罰0 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、年3回の防災訓練を2回に変更した。 (8月と12月に実施) ・8月の防災訓練は屋内に避難した。 ・12月の防災訓練については、感染防止のため避難経路を年次ごとに分けた。年次ごとのプログラムでは、防災意識を高めるように工夫した。 ・勤務管理システムでの時間外勤務の入力を毎月管理職が確認した。 ・月平均の時間外勤務が45時間以上の教員が18人であった。週休日に活動する部活動の顧問が増加する傾向にある。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が収まってきたら、事前通知なしの訓練導入を検討したい。 ・年次ごとのプログラムは、消防士など外部への講師依頼を行い、緊張感のある防災訓練にしたい。 ・時間外勤務を減らすため、業務の見直しや振り分けを進めていく。 ・引き続き適正な事務執行に努める。 ・経年による施設、設備の劣化、不具合には優先順位を

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査・検査等の指示・指摘事項 0 ・ 日頃からの清掃、点検、整備（校舎内外、農場含む）、危険箇所等の早期発見と改善に努め、施設に関する事故 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季休暇はほぼ取得できた。 ・ 月曜日を定時退勤日とし、呼びかけた。 ・ すべての部活動が定期的な休日を取りながら活動できた。 ・ 教職員の不祥事、体罰はなかった。 ・ 監査、検査における指示、指摘事項は「0」だった。 ・ 施設、設備に関する事故は「0」だった 	<p>決め県に要求していく。しかし、予算は年々厳しくなり、要望通りに進められないことが課題である。</p>
--	--	--	---	---